

『四国八十八ヶ寺歩きお遍路』から何を得たのか!

—お遍路から1年を経て思うこと—

特段の願掛けがあるわけではなく、高知県をひたすら歩いていたお遍路さんが修行僧「雲水」のように思えた時の記憶を下に、「私にもそのような時間が必要なのではないか」という、それだけが強い動機となって四国八十八ヶ寺歩きお遍路に向かいました。

2023(令和5)年3月12日、四国八十八ヶ寺歩きお遍路に向けて。一番札所霊山寺を5月13日に巡拝してから八十八番札所大窪寺迄を50日かけて歩きで巡拝し、5月1日に八十八番札所大窪寺迄辿り着け、無事「結願」しました。その後、1番札所霊山寺までの45kmを二日掛けて戻り、弘法大師縁の四国八十八霊場を一つの輪につなぎました。更に、高野山「奥の院」を参拝(5月3日)し、無事に四国八十八ヶ寺をお参りできたことの報告とお礼のお参りをしました。その際、高野山の麓にある九度山駅から高野山奥の院までは、紀伊山地の霊場と参詣道「高野山町石道」という約23.5kmの古道があるので、そこも歩いて奥の院を参拝しています。全行程1,321kmを延べ56日かけて歩き切り、5月6日に自宅に戻りました。

凝り性の私は、「せっかくお遍路するのであればフルバージョンで!」と、全行程を「歩き」「通し打ち」でお遍路しました。加えて「1番札所霊山寺」迄戻って四国八十八霊場を一つの輪に繋ぎ、更には、「高野山町石道」を歩いて高野山奥の院を参拝するという、四国八十八ヶ寺お遍路で考え得る全ての行程を、遠い昔からのやり方に沿う様にして行いました。

今回の目的を強いて挙げるのであれば、これまで70有余年、多くの方々にお世話になって今があり、私そして家族の安寧があります。なので、これまで関わって頂いた全ての人々に感謝し、皆様にご加護のあらんことをお祈りすることです。もう一つは、各お寺のご本尊そして弘法大師に「70余年にしてこの地に立てることへの感謝」を伝えることです。

四国八十八ヶ寺歩きお遍路から戻り、1年が経ちました。四国での体験は今どのように生かしているのか。この様に自分に問うた時、即答できない自分がいます。なぜなら、戻って数日後には、四国での56日が、無かったかのように日々淡々と過ぎていたからです。あれほど、ただ歩くだけなのに様々なことが次からつぎに起こり、青息吐息だったのが、別の世界の出来事のように思えるのです。

どちらを元にして考えるかだと思いますが、四国での56日から今の生活を見れば、「何と怠惰な生活をしているのか」と思えるし、現在の生活から四国での56日を見れば「難行苦行の異常な世界」となります。どちらも、そこに居るのは「私」なのですが、何処に身を置くかで感じ方や見方が変わってしまいます。何よりも大きく違うのは、時間との向き合い方(使い方)の様に思います。

この様に、当時と今を比較して振り返ってみると、四国八十八ヶ寺歩きお遍路をしているときは、時間との向き合い方が、お遍路を続ける中で次第に変化していったような気がします。当初は、これからの先の日数や行程の厳しさにため息をつき、過ぎ去った失敗にくよくよしていたように思います。

少しずつ変化が出てきたのは、高知県（修行の道場）からです。厳しい行程に加えて疲れがたまり余裕が無く、先のことを考えられなくなり、結果として「今」で精一杯になってきたのです。この様な状況を繰り返し替えている内に、結果としてではなく意識的に「今だけを見る」様になってきたのです。

こう整理してみると、先ほどの問い、「何が変わったのか」は、『今を大切にしようになった』ことかも知れません。この様なことがあって、四国八十八ヶ寺歩きお遍路から戻ってきてから「而今」（じこん/にこん）という言葉に出会ったのです。

この言葉は、曹洞宗の開祖道元の『正法眼蔵』（第十大悟）に出てきます。その中では、「未来・現在を幾千万も考えてみても、今が重要だ。すなわち、この一瞬だ。人の生き方というのは、今が重要だ」と、あります。「今、現在に集中する」という意味は、禅の「今、ここ」を大切にすることを端的に表した言葉として度々用いられています。

「今、この一瞬が大切だ」という考え方は、何らかの困難や惨苦見舞われた時に向けられる言葉としても用いられます。辛い経験からの脱却に当たって、すでに起きた過去を何度思い返してもしょうがないじゃないかという含意が而今にあります。この意味をそのまま活かして、自分の不幸からの再起や人を励ます場面で、「過去を振り返るのはひとまずやめて、いまやるべきことをやろうよ」と今に集中するという最高の気分転換の一語として用いることができます。更には、「過去を全て忘れました」「先のことを案じることをやめました」ということで、潔い心地よい生き方を表わす語として自分に投げかける言葉にもなります。

今、この瞬間に集中することは、その今は短いほど有効です。つまり今月より今週、今週より今日、今日よりもこの1時間、この1時間よりもこの1分といった具合です。時間が長いほど未来や過去が入り込んできます。時間が短いと、できることは小さくなりますが、逆にできるかできないか分からないことが入り込む余地が減っていき、思考よりも実践に集中できるようになります。この言葉の説明は、四国八十八ヶ寺歩きお遍路をしていた時、そのものです。

而今に相通じる言葉として、よく知られている言葉に「日々是好日」（にちにちこれこうじつ）があります。これの出典は禅書『雲門広録』です。「一日一日をよき日として過ごすこと、すなわち明日のことは、今は考えません。明日のことは明日になってから考えましょう」と、いう意味で、禅語のなかで、最も広く知られている禅語です。これも、お遍路の最中、特に布団に入るときに自分に言い聞かせていた言葉です。

四国八十八ヶ寺歩きお遍路から丸々1年が経ち、改めて振り返ることで『而今』という言葉やそれに基づいた振る舞いに気を配るようになりました。四国八十八ヶ寺歩きお遍路は、私のこれからの残り少ない人生において、とても大切な体験であり学びであったと言えそうです。これもひとえに皆様のおかげです。有り難うございました。改めて感謝を申し上げ振り返りを終わりにします。